

1 学校経営にあたって

1 学校経営の基盤

(1) 本校の創設

本校は「新しい仁賀保町民づくり」の願いをこめて、昭和34年に平沢、院内、小出の3中学校を統合し創設された。当時としては、校地の広さと校舎の充実ぶりは画期的なものがあつた。建設場所も3地域のほぼ中央の丘に位置し、校舎屋上からは、南に鳥海山、西に日本海、北に近代科学工場群、東には仁賀保高原が眺望できる好環境の地に求められた。校章は、霊峰鳥海山と3校の統合融和、未来に伸びゆく「仁中」を表徴している。



(2) 地域の特性

本地域は旧町民憲章の中の、「太陽、緑、海の町」「心の通い合う町づくり」「健康、勤労、奉仕を喜び合える生活」、「世界に開かれた町づくり」、「学問、芸術、体育における活動の重視」に基づき、これまでその基盤を築き上げてきた。しかし、平成17年10月の三町（仁賀保・金浦・象潟）合併に伴う新市（にかほ市）誕生により、新市の掲げる「夢あるまち 豊かなまち 元気なまち」の指針を受け、教育の基本理念も「ふるさとに学び、ふるさとにかかわる教育の推進」のように「ふるさと」を教育の基点とすることに改めたところである。そこでこの精神を反映し、学校教育の目標もまた、「夢をもち、心豊かで、元気な子どもの育成」と、今後の本市の子どもたちのあるべき姿を願うものとなっている。

一方、本地域の平沢、院内、小出の地域には著名な政治家や文化人の輩出があり、時代とともに変遷があつたものの、帝石、昭石、TDK等、石油化学の有力な企業による豊かな経済力、雇用力は、その恵まれた環境とあいまって地域住民に独特の意識の高さと活力を与え、旧町政の教育投資も大きく、地域住民の教育・文化に対する要求水準も極めて高いものがある。また、本地域は平成2年度にアメリカ、オクラホマ州ショウニー市と姉妹都市提携を調印し、以後、毎年国際交流団が訪問するなど、国際交流事業にも力を入れている。

(3) 本校の特性

生徒数189名、PTA世帯数188、学級数8（特別支援学級2）の適正規模である。生徒数は、昨年度比で15名減少となっている。学習、文化、スポーツにおいて輝かしい伝統をもつ中学校であり、進学率が高く部活動では各部とも、本荘由利地区内でも常に上位を占めている。

平沢小、院内小（平成27年度、小出小と統合され新生院内小学校となった。）の2小学校から入学し、保護者の学校に寄せる期待や関心は高くPTA活動も盛んである。

(4) 校舎・校地の現況

平成2年度には全県に先がけてパソコン40台の設置、同3年度には、サッカーグラウンドの竣工、同4年度にはグラウンドの整備、さらに同8年度には、テニスコート4面、ソフトボール場の完成と、これまで着々と整備を進めている。また、平成17年度には校内すべてのパソコンを更新、イントラネット環境を整備するなど、IT時代を先駆けた先進的な教育環境へと一新している。しかし、近代設備を誇った校舎も50年を経て、校舎内外の損傷が激しく、早急に改修が望まれていた。平成18年度、釜ヶ台中学校との統合が決まり、新校舎建設検討委員会が発足、平成20年9月に統合仁賀保中学校建設が着工、旧校舎3棟の解体、解体にともなう仮校舎建設、教室移転、平成21年3月には新体育館と武道場が完成、12月には新校舎が完成した。移転作業を経て3学期には新しい校舎での教育活動がスタートし、2月には創立50周年記念式典を新校舎で行った。同時期から3月までに残された旧校舎1・2棟と旧体育館・小体育館の全ての解体が行われ、平成22年度4月には、釜ヶ台中学校を統合した新生仁賀保中学校の開校となった。また、5月には外構工事が着工され、平成24年3月末日にはすべて完了した。令和元年10月には創立60周年記念式典を行い、令和2年8月には、生徒が普段学ぶ教室棟にエアコンが設置された。

(5) 「ヒシカタの丘」の教育の創造を

中学生の時代は、人生において多感で、最も成長する時期である。その時期にどう学習し、どう生活するかは大変重要な意味がある。

本地域出身の齋藤憲三先生の生き方に学んで高い志をもち、ふるさとを愛し、母校仁賀保中学校を誇りに思い、変化の激しい社会の中で他者と協働して力強く生きていける自立した人間を育成するために、仁賀保中学校での教育を、生涯忘れ得ぬよき友との「出会い」の場として、また、心に残る「学び」の場として、「ヒシカタの丘」で創造していきたい。

2 学校教育目標

「ゆたかに たくましく」 <安心感の中で、自己有用感が高まる集団づくり>

3 校 訓

～校歌の心 高らかに～ 『自主・自律』 『協 力』 『敬 愛』

4 目指す生徒像【本校で育てたい資質・能力】



『自主・自律』【セルフコントロール力】

⇒「自らを鍛えて伸びる生徒」

- 不得意なことや苦手なことに果敢に挑戦し、自らを変えることができる。
- やる気や気分に関心されることがなく、自分がすべきことに取り組むことができる。



『協 力』【コミュニケーション力】

⇒「対話により共に励み合う生徒」

- 相手に応じて工夫をしながら、自分の考えや気持ちを適切に伝えることができる。
- より良い解決や創造のために、分担・協力しながら進んで関わるることができる。



『敬 愛』【ホスピタリティ】

⇒「正しく誠実に行動できる生徒」

- 多様な価値や考えを受け入れ、相手の気持ちに寄り添った言動をとることができる。
- 挨拶や礼儀を重んじ、相手に対して尊敬や感謝の気持ちを表すことができる。

5 学校経営の重点

学びの有用感と学力向上

- ①生徒主体の学習活動の拡充
- ②基礎学力の向上(県平均との比較)
- ③話型を活用した**発表力育成**と話し合い活動の活性化
- ④学習部・教科部・4年部との連携による**家庭学習の質的向上**
- ⑤カリキュラム表を活用した**学びの関連や連続性**を重視した単元構想
(『総合的な学習の時間』の整備・充実)
- ⑥「分かった・できた・認められた」を実感できる**個に応じた支援**の工夫

学習指導部

安心感と自治力を高める生徒指導の充実

- ①生徒と教師、生徒同士の**信頼関係**の構築
- ②将来と関連付けた言葉遣いの指導および**規範意識**の醸成
- ③定期的なプログラム委員会の実施による**自治力**の育成
- ④学習センターや各種関係機関との連携推進と**組織的対応**
- ⑤定期的なアンケート調査と**相談活動**の充実(心と体の健康チェック)

生徒指導部

思いやりの心の育成

- ①望ましい**学級集団**づくりと個が生かされる学年・学級経営の推進
- ②**自他の幸福**を育むウェルビーイングの考え方の醸成
- ③地域素材を活用した体験活動、**異年齢交流**、奉仕活動の推進
- ④授業の持ち方の工夫や全校での取組による**道徳教育**の充実
- ⑤適切な**メディア利用**の指導と人権教育の推進
- ⑥**リーダー**およびサブリーダーの育成

道徳指導部

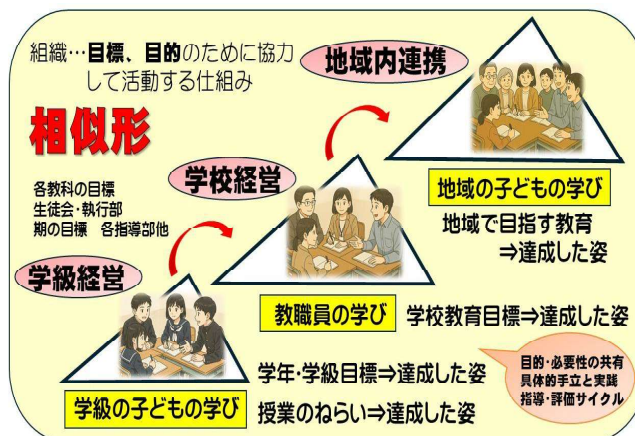
6 学校経営を支える土台

○成長を支える組織

- ・目標の具現化や目的達成に向け、共通理解のもと協働で取り組む（各種会議・部会）
- ・自己研鑽に励み、改善を目指して共に磨き、高め合える
（授業を見合う会の設定）
- ・生徒に寄り添い、多面的な生徒理解と個に応じた働きかけにより心身の成長を支える（定期的な情報共有とチーム対応）
- ・働きやすさと働きがいの両立
（業務の効率化・分業化）

○安全・安心な環境

- ・校内外の環境整備と安全対策
（危機管理マニュアルに基づく共通理解の徹底と安全点検……暑さ、害獣、感染症等への対策強化）
- ・生徒にとって居場所のある安心できる場
（生徒会やプログラム委員会を活用した集団づくりと定期的なアンケートによる居心地のよい学年・学級環境の形成）
- ・防災や交通安全に対する意識の向上
（避難訓練や安全教室の実施）
- ・『自主、自律』を重点とした教育活動の推進（道徳や特別活動との関連指導やメディアの適正利用など主体的行動の促進）



○地域との連携

- ・講座、教室における教育的効果の向上（単元配列表への明確な位置付けと主側側とのねらいの共有による効果的な運営）
- ・地域、保護者への情報発信と双方向での連携推進（学校報やHPによる情報公開の充実と学校運営協議会との熟議の開催による連携強化）
- ・地域素材の開拓や活用の充実（地域コーディネーターとの連携やデジタルアーカイブの活用による学習内容の発展）
- ・市内の学校や教育機関との情報共有と効果的連携の模索（有益な実践の共有や教育施設とのさらなる連携促進）

7 各期テーマと生徒像

期	テーマ	めざす生徒像	経営の方針
I 期	確立 『新たな出発』 4/8～5/10	○新たな気持ちで踏み出そう ・新しい生活と新しい目標 ・学級づくりをみんなの手で	学校・学級のルール確立 授業や家庭学習の約束 目標と具体的取組設定 好ましい人間関係の構築
II 期	鍛錬 『自分を鍛えて』 5/11～8/24	○自分の心と体を鍛えよう ・自己鍛錬 ・学習と諸活動の両立	↓
III 期	充実 『自分を豊かに』 8/25～10/12	○自分の心を豊かにしよう ・道徳教育の推進 ・集団への所属感や自己有用感の高まり	生徒主体の学習活動の推進 自治的活動の推進 自律的取組の醸成 リーダーの育成 信頼関係の醸成
IV 期	発展 『自分を見つめて』 10/13～1/13	○自分の長所を伸ばそう ・自分や友達によさの発見 ・自分を知り長所を伸ばす	↓
V 期	評価 『希望を抱いて』 1/14～3/19	○実りある生活を送ろう ・成長の確認とまとめ ・次年度に向けての展望	創造的・発展的活動の推進 集団の質の高まり